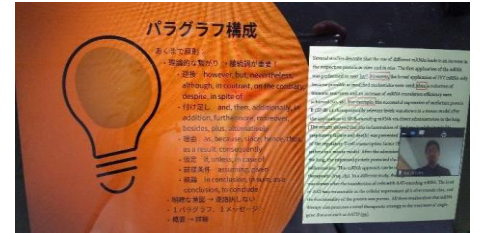


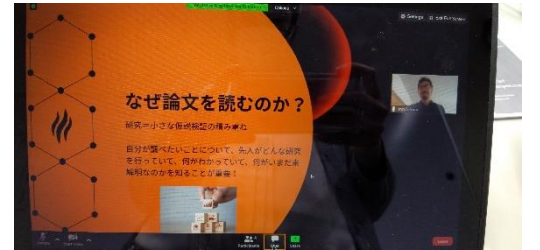
最先端の研究を英語で学ぶ！



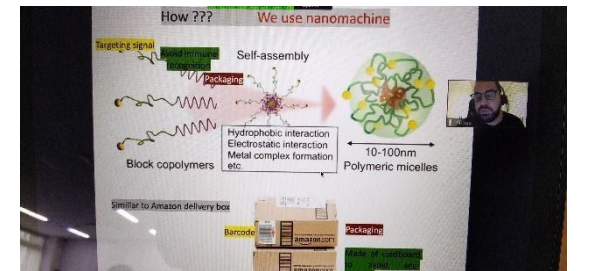
サイエンス・ダイアログ



令和3年度初めて、日本学術振興会が実施している「外国人特別研究員事業（サイエンス・ダイアログ）」を行い、3年次に生物を選択する予定の2年生22名が参加しました。今回は事前学習を1月14日（木）、本番のサイエンス・ダイアログを1月22日（金）に、どちらもオンラインで実施しました。事前学習として、各自で2つの英語の記事と論文を読み、内容やその分野に関する用語等を学習しました。また、講師として株式会社NeUより人見徹先生をお招きし、英語で書かれた論文をどのように読み解くべきか、どのような特徴があるかなどについて講義をしていただきました。事前学習の講義の中で、「何か講義や話を聞くとときは、必ず質問をしようと思って聞くと、理解が深まる」ということを学び、当日までにしっかりと講義を聞くための質問も準備することができました。

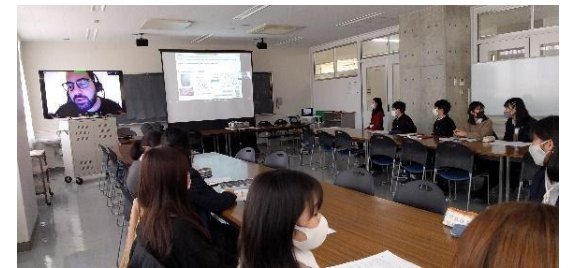


そして、サイエンス・ダイアログ当日には、川崎市産業振興財団ナノ医療イノベーションセンターより、来日している外国人研究者 Saed Abbasi 研究員を講師として派遣していただきました。彼の専門分野は「医歯薬学・生体医工学」で、特に現在研究を行っている「肝細胞特異的RNA送達システムを用いた生体内ゲノム編集」について英語による講義を聞き、質疑応答を行いました。英語による講義は難しく感じるところもありましたが、研究内容を分かりやすく説明している動画もあり、最先端の医療について興味をもって講義を聞くことができました。また、事前学習で学んだことを活かし、英語による質疑応答も盛り上がりしました。



参加者の感想

- ・英語で研究の話聞くことは新鮮で面白かったです。
- ・講義だけでなく、動画も見ることができて、分かりやすかったです。英語を全部聞き取るのは難しかったが、キーワードをピックアップして聞くことができました。
- ・図を多用してくださって、研究内容についてよく理解できました。参加する前は不安でしたが、とても楽しかったです。



たま国際プログラム ～多文化共生を考える～

令和3年3月11日（木）に、「たま国際プログラム」という多文化共生を学び考えるワークショップが実施されました。かながわ開発教育センター理事・事務局長の木下理仁先生とかながわネパール人コミュニティ代表のサブコタ・ドルラズさんを講師にお招きし、視聴覚室と一部の教室をオンラインでつなぎ、65期生が参加しました。

実際のワークショップでは、国籍や文化の異なる人々とのコミュニケーションの方法をグループで考えました。当日は東日本大震災からちょうど10年ということもあり、震災時に実際に起こった人々のコミュニケーションをもとに、「様々な人がいる状況で、自分ならどのように行動するか」を考えました。また、現在でも、多文化共生のために行われている9つの取り組みがあります。これらに優先順位をつけるなら、どのような順番にするのかを考え、全体で共有し、議論を深めていきました。多文化共生を実現するためには、社会全体で取り組むべきこともあれば、私たち個人で取り組むことができることもあります。1つの正解があるわけではないからこそ、様々な人々とどのようにコミュニケーションをとって行動していくか、考え続けたいです。

【現在の9つの取組】

A いろいろな国のことばで対応できる「相談窓口」をつくる。
B ことばや生活習慣の違いで困っている人を助けるボランティア活動をする。
C 国際交流のイベントを開催する。
D テレビ、ラジオ、インターネットなどを利用し、いろいろな国のことばで情報を流す。
E 学校や地域で「国際理解教育」に力を入れる。
F 身近なところにいる国籍や文化の違う人と友達になる。
G 外国人に対して差別的な行いをした人を罰する。
H 外国人の参政権を認める。
I 自分の文化に誇りを持ち、自分らしく、のびのびと生きる。



メラメラ 情熱メラキ

第20号-2

令和3年4月12日

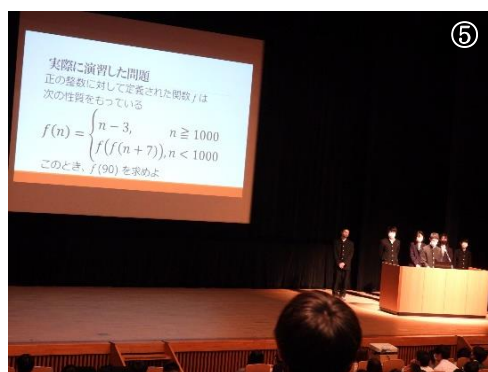
令和3年3月に行われた多摩高校研究成果発表会と外部への発表会の様子をお伝えします。

令和2年度研究成果発表会

3月24日多摩市民館ホールにおいて研究成果発表会が行われました。Merakiの活動から4グループ、数学オリンピック報告、SSH研修旅行報告の計6グループの発表でした。質疑応答では鋭い質問がたくさん飛び出し、運営指導員の先生からもたくさんのアドバイスをいただきました。生徒の皆さんにとっては良い刺激になったのではないのでしょうか。



	テーマ	メンバー	写真
Meraki I	食材を“包み”長持ちさせる試み	小田嶋楽, 島津万奈, 細野真実, 吉井界澄, 吉澤拓真	①
	より早く部屋を暖めるには?	伊藤正悟, 石原実和, 坪井孝洋, 中井心咲	②
Meraki II	自然由来の物質でプラスチックを作る	浅水屋広希, 瀬山大吾, 福元海輝, 山岸生弥	③
	果物を使って汚れを落とす	阿部菜月, 北川陽菜, 佐藤実紀, 余越美咲	④
	数学オリンピック報告	小川範子, 中島圭音, 中嶋暖, 佐藤陸斗, 別府秀政, 本澤龍紀	⑤
	SSH研修旅行報告	ベシイ芽依, 若月温美	⑥



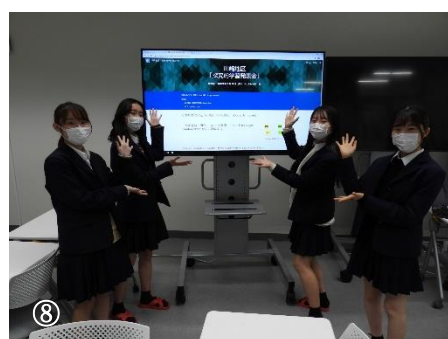
3月18日に川崎地区探究的学習活動発表会、3月27日にかながわ探究フォーラムがオンライン(本校PC室、メラキラボ)で行われ、どちらも1、2年から1グループずつ参加しました。

川崎地区探究的学習活動発表会

川崎市内の県立高校による探究活動での取り組みの発表が行われました。高校によって行っている内容が異なり、興味深いものばかりでした。Google Jamboardを用いた質問・コメントなど、慣れないオンラインでの発表でしたが、生徒は活発に意見交換をすることができました。

	テーマ	メンバー	写真
Meraki I	チョークの再形成	青木脩人, 石割万結花, 橋本凌弥, 室本鈴香	⑦
Meraki II	会話の中で大切なことは?	河野日菜子, 佐藤理々花, 藤田菜乃葉, 松本佳奈	⑧

【参加校】生田高校、生田東高校、川崎高校、川崎北高校、新城高校、住吉高校、菅高校、大師高校、百合丘高校



かながわ探究フォーラム

神奈川県と東京都のSSHまたは理数教育推進校に指定された高校による探究活動の発表が行われました。1グループ30分で発表、質疑応答を行い、他校の生徒からの質問や、横浜国立大学をはじめとした各大学の先生からご意見を頂き、大変参考になりました。本校の運営指導委員、横川慎二先生にも見守って頂きました。

	テーマ	メンバー	写真
Meraki I	炭を使って界面活性剤を取り除こう	大村海斗, 杉山天真	⑨
Meraki II	ビル風を使って発電しよう!	猪股涼香, 富田冴, 藤川樹里, 結城瑠南	⑩

【参加校】(県立)厚木高校、小田原高校、鎌倉高校、希望ヶ丘高校、相模原高校、平塚江南高校、横須賀高校、横浜緑ヶ丘高校
(市立)横浜サイエンスフロンティア高校
(都立)小石川中等教育学校、戸山高校、多摩科学技術高校
(私立・国立)中央大学附属高校、東京学芸大学附属高校

